

南三陸町と大船渡市のいま

東日本大震災から6年。復旧・復興は進むものの道はまだ半ばだ。各地に震災の爪痕は残るが、ここでは宮城県南三陸町と岩手県大船渡市にスポットをあてる。震災当時の写真も掲載する。2011年3月11日の出来事を忘れないためにも。

東日本大震災から6年



鉄骨だけとなった南三陸町の防災対策庁舎。津波のすさまじさかわかる(11年3月13日)



震災直後の大船渡。胸が痛む風景だ



がれきが処理された庁舎(12年1月)



がれきが片づけられたものの、以前の風景と大きく変わった(11年7月)



後方には地盤のかさ上げが見える(16年2月)



市民の日常生活を潤した「大船渡屋台村」。今年4月にはその役目を終える(12年12月)

南三陸町
震災に伴う津波の恐ろしさを伝えるのが、職員とが決まっていた町の防災対策庁舎。昨年11月から行われていた補修工事も終わり、2月中旬にオープンした仮設店と大きな被害を受けた大船渡市にスポットをあてる。震災当時の写真も掲載する。2011年3月11日の出来事を忘れないためにも。

震災から20年となる2031年までは、人も多くの人に足しを運んでほしいと願う。地域経済の復興を支える中心商店街誕生に期待は高い。オープンするのは飲食店が入る「キャッセン」が中心の「キャッセン・モール」だ。民間資本による都市型ホテルや大規模店舗がすでに開業している。町の復興計画をめぐり、まちのいきわいをめぐり、素早い取組を促した。また、市民の悪い噂を聞き、大規模な地盤のかさ上げ工事行われている。大船渡屋台村の営業は4月1日、新しい商店街がその役割を終えることになる。

東北6県の外客宿泊震災前の1.3倍の水準
復興庁調べ

東北の観光が復興しているのかを示すバロメーターのひとつが外国人観光客の動向だ。復興庁によると、2016年1年間に東北6県に宿泊した外国人客は64万1070人泊で、震災前(10年1~12月)の水準と比べて1.3倍になった(観光指針)という。前年比22.0%増は全国平均(5.9%増)を上回る伸び率だ。震災の影響が持ち続けた3県(岩手、宮城、福島)の外国人客は前年比19.3%増の36万8330人泊。震災前と比べても1.1倍となっている。岩手、宮城に宿泊する外国人客は10万人泊だが、福島は7万人泊にとどまっていた。復興の足取りはやや鈍い。原発事故の影響もある。原発のただ、前年比伸び率は6県のなかでも最も高く、49.4%増だ。

東北の外国人延べ宿泊者数

	2016年 (1月~12月)	対前年比	震災前との 比較
全国	64,067,520(人泊)	+5.9%	2.5倍
東北6県	641,070(人泊)	+22.0%	1.3倍
東北3県 (岩手・宮城・福島)	368,330(人泊)	+19.3%	1.1倍
青森県	145,370(人泊)	+32.3%	2.5倍
岩手県	115,580(人泊)	+16.3%	1.4倍
宮城県	180,930(人泊)	+12.2%	1.1倍
秋田県	56,810(人泊)	+14.0%	0.9倍
山形県	70,560(人泊)	+23.3%	1.3倍
福島県	71,820(人泊)	+49.4%	0.8倍

観光立国実現は、地方(地域)から推進を 地域活性化を図る紙上座談会のご提案

DMO(観光地域マネジメント・マーケティング組織)が注目されているように、改めて地方(地域)の魅力を見つめ直し、観光のあり方を新しく創造する時代となっています。

観光経済新聞は長年、地域活性化座談会を通じて、地方(地域)の活性化に貢献してきました。

紙上座談会の開催を通じて地方(地域)にふさわしい方向性を見出してください。

